

平成29年度 政務活動報告書

会派又は議員名 後藤 正洋

政務活動期間	平成30年1月16日～19日（4日間）
政務活動先	長崎県五島市、佐賀県神埼市・吉野ヶ里町・佐賀市
政務活動参加者	後藤正洋（1名）
政務活動項目	○五島市と航空自衛隊福江島分屯基地との相互扶助・協力体制の現状について ○地方創生総合戦略の概要と進捗状況について
政務活動項目に係る〈目的・結果等の概要・所見〉	別紙のとおり

平成 29 年度 政務活動報告書

当別町議会議員 後藤正洋

政務活動期間 1月 16 日(火)～1月 19 日（金） 4 日間

政務活動先 長崎県 五島市

佐賀県 神埼市・吉野ヶ里町・佐賀市

政務活動参加者 後藤正洋

政務調査活動項目

長崎県 五島市

人口 38490 人(H27) 高齢化率 36.8% 交付税割合 45.8%(H29 当初予算)

H27 年間 約-600 人 子供の割合 11.1%

ふるさと納税額 平成 28 年 6059 件 174,225,043 円 (前年 126,688,101 円)

研修項目

五島市と航空自衛隊福江島分屯基地との相互扶助・協力態勢の現状について

地方創生総合戦略の概要と進捗状況について

自然風土を活かした観光行政の推進について

祈りの島 - 歴史と宗教について

航空自衛隊第 15 警戒隊 福江島分屯基地司令 表敬訪問

《 研修報告 》 1月 17 日 9 時から 14 時

五島市では、谷川議長・荒尾前議長の出迎えを受け、議長室にて表敬訪問挨拶後、山田局長より研修項目の概要・議会運営等について説明を受けた。その後 関係係の担当より個別に説明を受け、項目毎に意見交換を行った。

特に、総合戦略の人口減対策では、若者達の人口流出に対する対策として、離島というハンデを克服するため、全国から生徒を募集し実績を上げ、その後の就職先斡旋等努力している。その窓口としてマグロの養殖事業を展開し、起業を進める中で若者の定住化を進めている。

観光行政施策では、鬼岳星空ナイトツアーやイベントの開催や、交流人口を増やす努力も重ねていて、北海道登別市の高校生の民泊修学旅行を連続で誘致している。今後は外国人旅行者をも増やしたいと意気込みを語っていた。

五島市は江戸末期に所謂隠れキリシタンが深い信仰を広めた地域であり、歴史的な建造物も多く、長崎県と共に世界遺産登録を目指しているが、この夏にも 3 度目にして承認される予定と伺っている。この事に対する説明は大変興味深かった。その後、城郭の中に建つ福江高校・観光歴史資料館を視察。

昼食後は谷川議長・荒尾前議長・山田局長と共に航空自衛隊第 15 警戒隊 福江島分屯基地 立石敦司令を表敬訪問し、市民との交流事業や防衛監視情勢等について意見交換し、空港に向った。

佐賀県 神埼市

人口 32490 人 高齢化率 27.4% 交付税割合 34.3%

H28 年間 -436 人 子供の割合 18.6% (全国平均 17.7%)

ふるさと納税額 平成 28 年 731 件 25,913,000 円 (前年 3 倍)

菱の実の焼酎、神埼 和菱 別名ウオーターマロン 金賞受賞 H29.12

研修項目

神埼市と航空自衛隊脊振山分屯基地との相互扶助・協力態勢の現状について
地方創生総合戦略の概要と進捗状況について
人口減少対策、子育て支援・教育環境の充実について
ふるさと納税と伊藤玄朴記念館整備基金の運用と進捗状況について

佐賀県 吉野ヶ里町

研修項目

吉野ヶ里遺跡群見学

吉野ヶ里歴史公園を中心とする観光行政における国・県・市の連携について
「魏志倭人伝」に著された弥生時代のクニの有り様を確認し、観光施設としての現状を知る。

《 研修報告 》 1月 18日 10時から 17時

古より長崎街道神崎の宿と唄われた神埼市では、廣瀧議長 田原副議長の出迎えを受け表敬訪問後、菱の皮を練り込んだ「ひしほうろ」(お菓子)を戴きながら、服巻局長より研修項目を纏めた資料について説明を受け、懇談の後「伊東玄朴記念館」にて、政策推進室歴史文化振興係 佐藤健一主査の説明を受けた。

現在、神埼市は記念館整備のために、民間ファンド(寄附金)を募集しており、ふるさと納税にも連動させている。伊東玄朴は漢方医として地域医療に励んでいましたが、蘭学を学ぶためにシーボルトに師事する事により幕府の侍医となります。この間、当時不治の病とされていたジブテリアを治し、牛痘種法による予防医学を全国に広めた医者として著名であり、東大医学部の前身となった種痘所を開設しています。その後、玄朴生誕の地、仁比山を離れ、吉野ヶ里歴史公園にて弥生遺跡の発掘の歴史と保存・活用について現状視察した。

佐賀県 佐賀市

研修項目

佐賀県立博物館見学

明治 150 年。幕末維新の博覧会を予定する佐賀市の前夜を視察し、当時の偉人の功績をどのように顕彰しているか現状を見る。

《 研修報告 》 1月 19日 9時30分から 12時

最終日は、佐賀市内にある佐賀県立博物館を訪れ、常設展示を通じて佐賀県の歴史風土を学び、3月 17 日から始まる「備前さが幕末維新博覧会」の事前事業を視察した。市内街路では蝦夷地開拓の功労者・島義勇・大隈重信・伊東玄朴・草場佩川等、幕末の偉人を讃えるポスターや大看板が至る処に掲示され、佐賀県が排出し近代日本をつくった人の偉業を讃えている。

博物館の特別展では、佐賀藩校の弘道館に学び幼少期から学問と詩文・書画の分野で頭角を現した草場佩川の遺品が展示され、佐賀藩を代表する学者・文化人として多くの作品が紹介されていた。

当別町も 2 年後に開拓 150 年を迎えるが、開拓の歴史と開拓者達の偉業を顕彰する事が、自分たちの足元を固めて未来へ飛躍することの大切さを学んだ。